〔様式1〕

平成１７年度　事務事業評価表

記入年月日	平成17年4月14日	記入者		内線	3184
部名	都市部	課名	都市交通計画課	課長名	大村　秀雄
事務事業名	駅舎自由通路等維持管理費				
予算上の事務事業名	駅舎自由通路維等持管理費				

1　総合計画における位置づけ		施策コード	33120
基本目標	Ⅲ「躍動し　魅力あふれる交流拠点都市」をめざして		
政策名	第３章　利便性の高い公共交通網の確立をめざします		
基本施策名	第１節　利便性の高い公共交通網の確立	事業開始年度	
施策名	第２施策　利便性の高い公共交通網の整備	昭和63年以前	

2　実施根拠及び関連法令・条例等

3　個別計画の概要

計画名				概要
計画年次		年度～	年度	

4　事業形態の区分　維持･管理･補修

5　事業概要

（１）事業の目的（何のためにに行うのかまたはもたらしたい成果）

橋本駅南口自由通路階段、矢部駅南口自由通路階段、淵野辺駅南北自由通路及び南口エレベーター、古淵駅エレベーター、町田駅エレベーター及びエスカレーター、原当麻駅エレベーターについて、安全・快適に利用できるよう維持管理を行う。

（２）対象（誰、何）

橋本駅、矢部駅、淵野辺駅、古淵駅、町田駅、原当麻駅の利用者

（３）平成１６年度事業の内容（活動）・・・いつ、どのような方法で実施した内容（活動）なのか。

年間を通じて行っている事業
平成１６年度の決算見込みは以下のとおり
需要費 3,390,550円（光熱水費901,735円、施設修繕費2,488,815円）
役務費　 138,970円（駅自由通路等施設賠償責任保険）
委託料11,973,415円（駅自由通路等維持管理業務委託11,939, 250円　消防設備保守委託34,165円）
負担金 3,085,886円（駅自由通路等光熱水費負担金）

6　関連・類似事業や他市の状況

近年、新しく整備される自由通路は、２４時間、街と街を繋ぐための都市施設という位置付けのため、維持管理は自治体が行っている事例が多い

7　事業費の推移　〔単位：千円〕

年度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)
事業費	14,497	15,470	18,588	19,119	19,119
一般財源	14,497	15,470	18,588	19,119	19,119
受益者負担金	0	0	0	0	0
その他の特定財源	0	0	0	0	0
人件費の合計	562	536	540	540	540
事業コスト合計(a)	15,059	16,006	19,128	19,659	19,659

8　事業効率・・・（複数の事業で構成されている場合は、その中の主たる事業）

主たる事業名	駅舎自由通路等維持管理費	対象名称（単位）	維持管理駅数

年度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)
事業コスト(主たる事業)	15,059	16,006	19,128	19,659	19,659
対象数	6	6	6	6	6
単位あたり経費(円)	2,509,833	2,667,667	3,188,000	3,276,500	3,276,500
前年度比		1.06	1.20	1.03	1.00

９ 活動指標・・・実施した内容（活動）の数値化

指標名(単位)	施設利用の快適性	指標式と指標の説明	（365-当該年度の苦情件数）/365日×100	

	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度（目標）
実　　績	96.0	98.0	98.0		
目　　標	96.0	97.0	97.0	98.0	98.0
目標達成度	1.00	1.01	1.01		

１０ 成果指標・・・対象と意図の達成度を表す指標

指標名(単位)	施設利用の安全性	指標式と指標の説明	（365-当該年度施設修繕件数）/365日×100

	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度（目標）
実　　績	98.0	98.0	97.0		
目　　標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
目標達成度	100.0	100.0	99.0		

１１ 個別評価

（１）妥当性の評価　〔Ａ：妥当である・Ｂ：妥当性に課題がある・Ｃ：妥当でない〕

A

- ☐ 法令等により実施することが義務付けられている。
- ☐ 法令等に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。
- ☑ 公益性が高い、または必需性が高い事業である。
- ☑ 将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。
- ☑ 税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。

（２）有効性の評価　〔Ａ：有効である・Ｂ：有効性を高める余地がある・Ｃ：有効でない〕

A

- ☐ 上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。
- ☑ 課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。
- ☑ 成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。
- ☑ 事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を享受している。

（３）効率性の評価　〔効率が良い・Ｂ：効率性を高める余地がある・Ｃ：効率が悪い〕

B

- ☑ 単位あたりの経費は適正である。
- ☐ これ以上コスト節減の余地がない。
- ☐ 受益者負担や補助等の割合に問題はない。
- ☑ 事業の実施方法や実施体制は適正である。

（４）民間活力の導入の可能性　〔有・無〕

無

- ☐ 業務の一部または全部について、民間で実施する方が経費の節減に繋がる。
- ☐ 業務の一部または全部について、民間で実施する方が技術・知識面で優れている。
- ☐ 業務の一部または全部について、民間で実施する方がサービス面で優れている。
- ☑ 民間では実施していない、または市が実施する方が優れている。

１２ 総合評価

（１）自動判定結果

★★★

- 〔★★★★〕：良好な状態を維持する事業
- 〔 ★★★ 〕：概ね良好な状況である事業
- 〔 ★★ 〕：見直しを行う必要がある事業
- 〔 ★ 〕：抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業

（２）担当課の課長による評価（今後の方向性）

現状維持

- ☐ 拡充・充実
- ☑ 現状維持
- ☐ 見直し
- ☐ 廃止

（３）課長の評価に関する説明

施設の位置付け上、市で管理しており施設の清掃、電気代、保守点検と施設破損時の修繕でほとんどであることから現状維持する。

１３ 成果の向上及び効率性を高めるための方策

自由通路を安全・快適な施設としていくためには、雨漏りの修繕等必要な管理を行う必要がある。

１４ 課題として認識されたこと

鉄道駅構内にある施設について、鉄道事業者との管理区分の明確化を図ること。

１５　二次評価

（１）行政評価会議による評価　（今後の方向性）

現状維持

- ☐ 拡充・充実
- ☑ 現状維持
- ☐ 見直し
- ☐ 廃止

（２）二次評価コメント